

令和2年(2020年)1月7日

れきみん

# 資料館だより

No. Ⅲ-24

相生市立歴史民俗資料館

## あけましておめでとございます

新しい年を迎え、4月以降(新年度)の事業計画を進めています。今年はオリンピック・パラリンピックイヤーですが、加えて、戦後75年、阪神・淡路大震災から25年という節目の年に当たります。

節目といえば、当資料館開館35周年、那波野古墳県史跡指定40周年、若狭野古墳県史跡指定35周年、近代あいおい発展の礎を築いた唐端清太郎没後100年などがあげることができます。新年度は、これらの記念事業、関連事業を予定していますので、多くの皆様のご参加・ご来館をお待ちしています。なお、計画の詳細については、3月初旬に『れきみん資料館だより』(当資料館ホームページにも掲載)でお知らせしますので、ご覧ください。

### 1.17 阪神・淡路大震災から25年~あの日を忘れないために、あの日を知るために~

1月~3月の期間、震災発生直後の状況を報じた新聞や関係書籍を展示したコーナーを設けています。ご来館の際は、手にとってご覧ください。

### 〈資料紹介17〉 第十一次南氷洋捕鯨 図南丸船団表彰楯

昨年6月、日本はIWC(国際捕鯨委員会)を脱退し、31年ぶりに商業捕鯨を再開しました。ただし、EEZ(排他的経済水域)と領海に限られたもので、かつての南氷洋(南極海)を中心とした捕鯨とは異なります。

捕鯨に対する評価はあくとして、当資料館1階には、かつて盛んであった南氷洋捕鯨を思い起こさせる資料が展示されています。

その一つに、図南丸船団の表彰楯があります。この楯は黒く塗られた木製化粧板の上に、文字や文様を線刻した真鍮板を取り付けたものです。木製化粧板は、縦38.8cm、横(最大幅)29.6cm、厚さ1.9cmを測ります。真鍮板は縦30.0cm、横(最大幅)23.5cmで、木板より一回り小さく、3mmばかり膨らませて取り付けられています。

真鍮板表面の縁辺部は唐草文をめぐらせ、内側は月桂樹とリボンを配しています。中央やや上に縁を線刻した「賞」の文字を、



第十一次南氷洋捕鯨 図南丸船団表彰楯(1937年)

その上に「第十一次南氷洋捕鯨」の文字を湾曲配置しています。また、下部に「第十一興南丸」の文字が刻まれています。

裏面上部には、縦 3.8cm、横 16.1cm の薄く平らな真鍮板が取り付けられ、そこには「日本水産株式会社」「図南丸船団長」の文字が2段に刻まれています。中央部に取付痕が見られることから、本来は支柱が付いていたものと思われます。

第十一次南氷洋捕鯨は、1956年（昭和31）～1957年（昭和32）に年をまたいで行われました。本資料からは、捕鯨母船・図南丸が捕鯨船団（附属冷凍船、附属捕鯨船、仲積船、油槽船などで編成）を率いて操業し、附属捕鯨船（キャッチャーボート）の間で捕獲量を競い合うという活気あふれるようすが浮かび上がります。第十一興南丸は、船団の中で捕獲量において優秀な成績を収め、船団長から表彰され楯が授与されたのでしょう。

図南丸は、もと「第三図南丸」で、1938年（昭和13）9月に竣工し捕鯨に使われていましたが、1941年（昭和16年）11月に日本海軍に徴用され、石油や物資の輸送に用いられるようになりました。1943年（昭和18）7月にアメリカ潜水艦の魚雷を受け損傷しましたが、トラック島（現ミクロネシア連邦）で修理され、同年11月に輸送任務を再開しました。しかし、翌1944年（昭和19）2月にトラック島空襲で被弾炎上し、沈没しました。

戦後、日本水産が捕鯨母船を必要としたことから、1951年（昭和26）3月に浮揚され、20日間の曳航後、4月15日から播磨造船所で修理が行われました<sup>（註）</sup>。同年10月17日に引渡式ならびに命名式が行われ、船名は「図南丸」に改められました。翌18日に歓喜に包まれ多くの市民に見送られて出航し、第6次（1951～1952年）～第20次（1965年～1966年）まで南氷洋捕鯨を行いました。その後も、1967年～1970年まで4回の北洋捕鯨を行い、1971年（昭和46）に引退するまで活躍しました。

数奇な運命をたどり日本の捕鯨を支えた図南丸は、毎年メンテナンスと次回捕鯨の準備のため冷凍船・捕鯨船・輸送船などとともに相生に入港したことから、多くの造船所関係者や市民に愛され親しまれました。

なお当資料館では、図南丸関係資料として、曳航時・完工時・出航時の図南丸の写真（1951年）をはじめ、曳航されてきた図南丸に付着していた牡蠣殻（1951年）、到着の状況を伝えた『毎日グラフ』の記事（1951年）、第7次南氷洋捕鯨時に乗組員が鯨の髭に図南丸を描いた絵（1952年）なども展示しています。本資料と合わせて播磨造船所から出航する図南丸船団をご覧ください。



（1951年）（森田ほか 1960）

〈註〉

修理の苦心談が『新播磨新聞』1951.4.21や『毎日新聞』1951.10.17に掲載されています（松本編 2008・森田ほか 1960）。

〈参考文献〉

松本恵司編 2008『ふるさと相生の二十世紀写真集』（相生まちづくり塾ふるさと相生の二十世紀写真集発行委員会）

森田穰平ほか 1960『播磨造船所50年史』（株式会社 播磨造船所）

\* 橋本一彦氏・松本恵司氏より、全般にわたって有益なご教示をいただきました。

（中濱久喜）